

編集後記

アーティスト・イン・レジデンス（「住み込み芸術家」？）を受け入れる制度は、一昔前までは現代美術関係の機関のものであった。最近は展示の対象が普段は「美術作品」とは限らない博物館が、クリエイターたちとの協働に新しい可能性を見出している。クリエイターたちにとっても、伝統的な意匠や自然が造り出す不思議な形などを収集し研究する博物館はインスピレーションの宝庫となる。

芸術家との共同制作を5年ほど前から積極的におこなっているフランクフルトの世界文化博物館の「世界文化ラボ」(Weltkulturen Labor) には、アーティストが文字通り「住み込み」で制作するための宿泊施設、スタジオ、展示空間までが整っており、研究者との濃密な交流の場が定期的に設けられている。一昨年、こうした共同企画の展覧会 *Foreign Exchange (or the stories you wouldn't tell a stranger)* を見る機会があった。

そこには「民族学」の名のもとには今や公開しにくい資料——例えば19世紀末の人類学者がインドネシアで現地の人々の男性性器ばかりを写した一連の写真——が、アーティストによるキュレーションという大義名分のもとに堂々と（といっても、子どもには見えない高さのケース入りで）展示されていた。博物館としては、ちょっとずるい「逃げ道」である。（山中由里子）

●表紙：みんなぱくの映像音響資料収蔵庫の隅にあった、かつてフィルムなどが入れられていた空き箱
 撮影：下道基行

次号の予告

特集

交流の場としてのアイヌ文化展示

月刊みんなぱく 2016年10月号

第40巻第10号通巻第469号 2016年10月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
 電話 06-6876-2151

発行人 池谷和信
 編集委員 山中由里子（編集長） 河合洋尚 菅瀬晶子
 丹羽典生 南真木人 吉岡乾

デザイン 宮谷一孝 長岡綾子
 制作・協力 一般財団法人千里文化財団
 印刷 能登印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係に
 お願いします。
 *本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「万博記念公園駅（エキスポシティ前）」「日本庭園前」下車、徒歩約13分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」（有料）から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんなぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんなぱくフェイスブック

<http://www.facebook.com/MINPAKU.official/>

みんなぱくツイッター

<http://twitter.com/MINPAKUofficial>